下水道事業

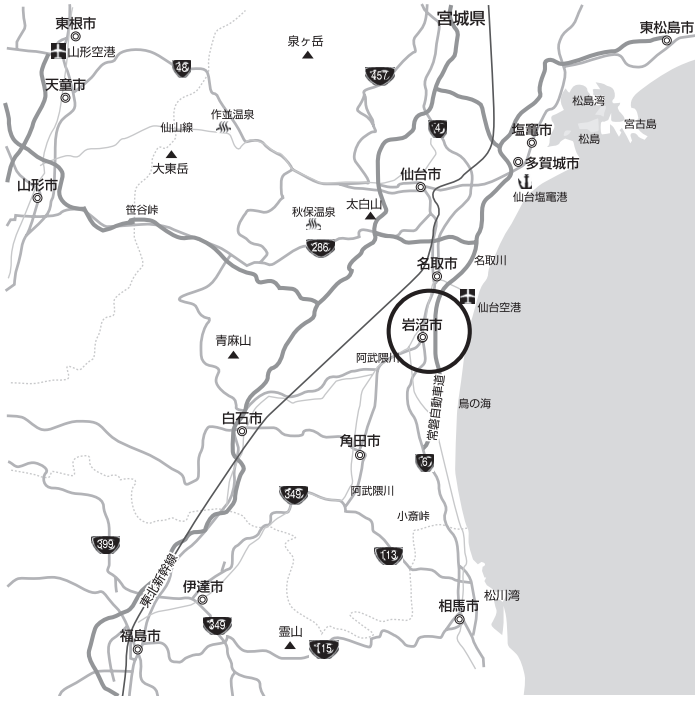
出発前

苫小牧市は、北海道下水道災害支援チームの第2陣として派遣される見通しでしたが、一体、いつ、どこに派遣になるのか、大きな余震が続いていたこともあって、不安の中での準備となりました。

支援業務としては、下水道施設の被災状況の調査ということでしたので、必要機材のリストアップから準備を始めましたが、大変だったのは、現地において、われわれの衣食住はどこまで確保できるのか、皆目見当のつかない中での生活用品の準備でした。当時は震災から2週間ほどしか経っておらず、懐中電灯や乾電池などの防災用品、また非常食などが被災地に向けられたせいか、道内では品薄になっており、東北地方の地図に至るまで品切れの状態でした。

しかし、なんとか4人分の最低限の必要物資を集め、災害支援に向かう準備を整えることができました。

3月28日に正式に災害支援チームの第2陣としての派遣が決定されました。



岩沼市：　人口44,000人　面積61km²　仙台市まで20km

出　発

3月30日、同じく第2次派遣となった北海道、恵庭市、釧路市と苫小牧港で合流し、数日前から利用可能になった仙台港に向け公用車2両とともに、同日19時発のフェリーで出発しました。

船には、災害支援関係者以外は乗船できなく、ほとんどが支援物資輸送のトラック運転手さんでした。

翌朝、沿岸に近づくにつれて、屋根や木材などが波間に漂っているのを見かけるようになり、いよいよ被災地に入ることに緊張感を覚えました。

仙台港フェリーターミナルに上陸すると、凄まじい津波の被害を目の当たりにしました。コンテナは散乱し、道路分離帯には被災した車両が山積みになっており、駐車場は液状化により大きく陥没していました。ターミナルなどの建物も被害が大きく、ほとんどが立ち入り禁止になっていました。

仙台港
写真左側では液状化現象も見られる

港周辺では信号などは機能しておらず、通行できない道もいくつかありました。

津波に流され散乱した車や看板を、道路脇による作業を車窓から眺めながら、まずは宮城県庁に向かい、第2陣として別ルートで現地入りしていた函館市、石狩市、小樽市、室蘭市と合流し、全19名の北海道チームとなりました。

宮城県と打ち合わせの結果、岩沼市を支援することが決まりました。

4月1日8時45分、支援先の岩沼市役所へ向け出発。道中、ガソリンスタンドが長蛇の列で、給油に時間を取られるのを覚悟していましたが、災害支援車両専用のスタンドがあるとのことで一安心。通行した仙台東部道路を境として、海側と山側では被害状態がまったく異なりました。海側は津波による壊滅状態、山側は大部分が地震による建物倒壊で津波の被害はほとんど見られませんでした。これは、道路の盛土が防波堤になったものと思われます。

岩沼市に到着し、調査の打ち合わせ後図面作製、担当地区の状況確認を行い19時、支援初日を終わりました。

がんばろう岩沼のヘルメット